

コールの R ユーカリ eport

絵を描いてみよう

以前から実現したいと思っていた教室を、先月皆さんのおかげで行うことができました。4月18日にオーストラリア特有植物をモチーフに水彩画教室を催し、オーストラリア美術について紹介しました。オーストラリアには特有の植物がたくさんあるため、風景を描くときの色使いが、ヨーロッパなどの風景を描くときと異なります。例えば、ユーカリの枝は茶色だけではなく白い部分もあり、葉の緑には紫や青が混ざっています。ヨーロッパの色使いに慣れてきたオーストラリアへの入植者の絵を見ると、実物とかなり違うことが明らかです。

私がこの教室を催したかった理由は、絵を描くことがとても心にいいと思うからです。絵が上手か下手かどうかは関係なく、自分が描きたいと思う絵を描くことで、体がホッとして心も落ち着きます。岡垣町で水彩画の教室に通ってそう感じました。

最近、福岡市で催された水墨画教室にも挑戦し、水墨画の技術の難しさを実感しました。水彩画と違

い、水墨画は集中しながら、意図的に描かなければなりません。初心者の私にとっては、心の落ち着きより、ドキドキする気持ちが強くありました。

そのとき、美術はどの国のどの文化にも存在する人間の共通点であり、心を落ち着かせること以外にもさまざまな機能を持っていると考えました。日本に住んで感じたのは、美術が自然を觀賞することと強く結びついていることです。生け花や俳句はもちろんですが、水彩画や油絵の教室でも生きている植物をよく描きます。直接、花やくだものを見ること、絵を描く楽しみの一部となっているようです。

皆さんも料理や彫刻、裁縫など、何か自分に合った芸術を探してみたいですか？



▲色鮮やかな水彩画を描きました

こんにちは！

私は東京や神戸、那覇、金沢など日本のさまざまな場所で暮したことがあります。どの場所も特徴があり魅力的でした。海と山の両方に恵まれている岡垣町も言うまでもなく、岡垣町ならではの魅力がたくさんあります。

特に外国人として嬉しく感じる印象的なことがあります。それは、町の中を歩いていると若い人がよく「こんにちは！」とあいさつをしてくれることです。今まで住んだ場所では、若い人たちにあいさつされることがあまりありませんでした。あいさつされても、必ずと言っていいほど英語でした。もちろんあいさつは何語でも嬉しいですが、見知らぬ人に英語で話しかけられると、何となく自分がよそ者として見られているように感じてしまいます。岡垣町の小中学生は、いつも「こんにちは」と言ってくれるので、私は岡垣町をととても住みやすく感じています。

ここで、東北の国際交流員から聞いた話を紹介します。彼はカナダ出身ですが、フランス語が主に使われている場所で育てられたので、母国語はフランス語です。彼は保育所で行う国際交流の授業で、子どもたちに外国の言葉や文化の多様性をいつも強調しているそうです。街で知らない外国人を見かけたら、まずは日本語であいさつすることを子どもに進め、英語圏の人かどうか、外国人かどうか見ただけで判断できないことを説明します。さらに、子どもたちに「もし将来自分がアメリカに引っ越し、いつも中国語で話しかけられたらどう感じますか？」と質問して考えさせているようです。

私はいつも、彼やほかの外国のともだちに、岡垣町の子どものフレンドリーさや温かいあいさつについて自慢しています。

